

特集

公共交通を未来へつなぐ

市民の重要な交通手段である路線バス。
自家用車の普及や人口減少、人口構成の変化などにより、バスの利用者は減少し、その経営は厳しい状況にあります。
公共交通を将来にわたって利用できるようにするため、私たちに何ができるでしょうか。

問合せ 企画課
(☎372-3311・内線3606)



モビリティ・マネジメント授業の様子 (西部中)

モビリティ・マネジメントとは…
過度に自動車に頼る状態から、公共交通や自転車などを上手に使う状態へ少しずつ変えていく取り組みです

将来を見据えて

市では将来の地域公共交通の指針になる、北広島市地域公共交通網形成計画を作成しました。計画期間は5年。今後さらに高齢化が進んでも、利便性が高く持続可能な公共交通網になるよう、計画に基づいた事業を実施していきます。

計画の作成に当たっては、行政や市民、交通事業者などの関係者を集めた地域公共交通活性化協議会・専門部会を中心に話し合いを進めてきました。

市民の交通行動やニーズを把握するため、バスの利用実態調査、市民の皆さんとの意見交換会、アンケート調査などを実施。その結果から、市の置かれた現状と問題点が浮かび上がりました。

地域公共交通の現状と問題点

乗りたい時間にバスが走っていない

市街地が分散

自動車に頼る生活が定着

目的地まで直通のバスがない

運行状況が分からない

乗り継ぎが不便

交通事業者の経営悪化や人材不足

バスの本数が少ない

無理のない範囲で

これらの問題を解決するために、基本理念と4つの基本方針を設定しました。今後、基本方針に沿った24の施策を検討・実施していきます。

現在、バスの利用者は減少しています。このまま利用者が減っていけば、廃止される路線もあるかもしれません。しかし、自動車を運転できない高齢者や学生などにとって、バスは生活に欠かせない交通手段です。

高齢になり自動車の運転ができなくなったとき、利用しやすい公共交通が整備されている。そんな未来を作るため、普段バスに乗らないという方も、無理のない範囲でバスを利用してみたいかがでしょうか。一人一人の行動が、公共交通の維持につながります。

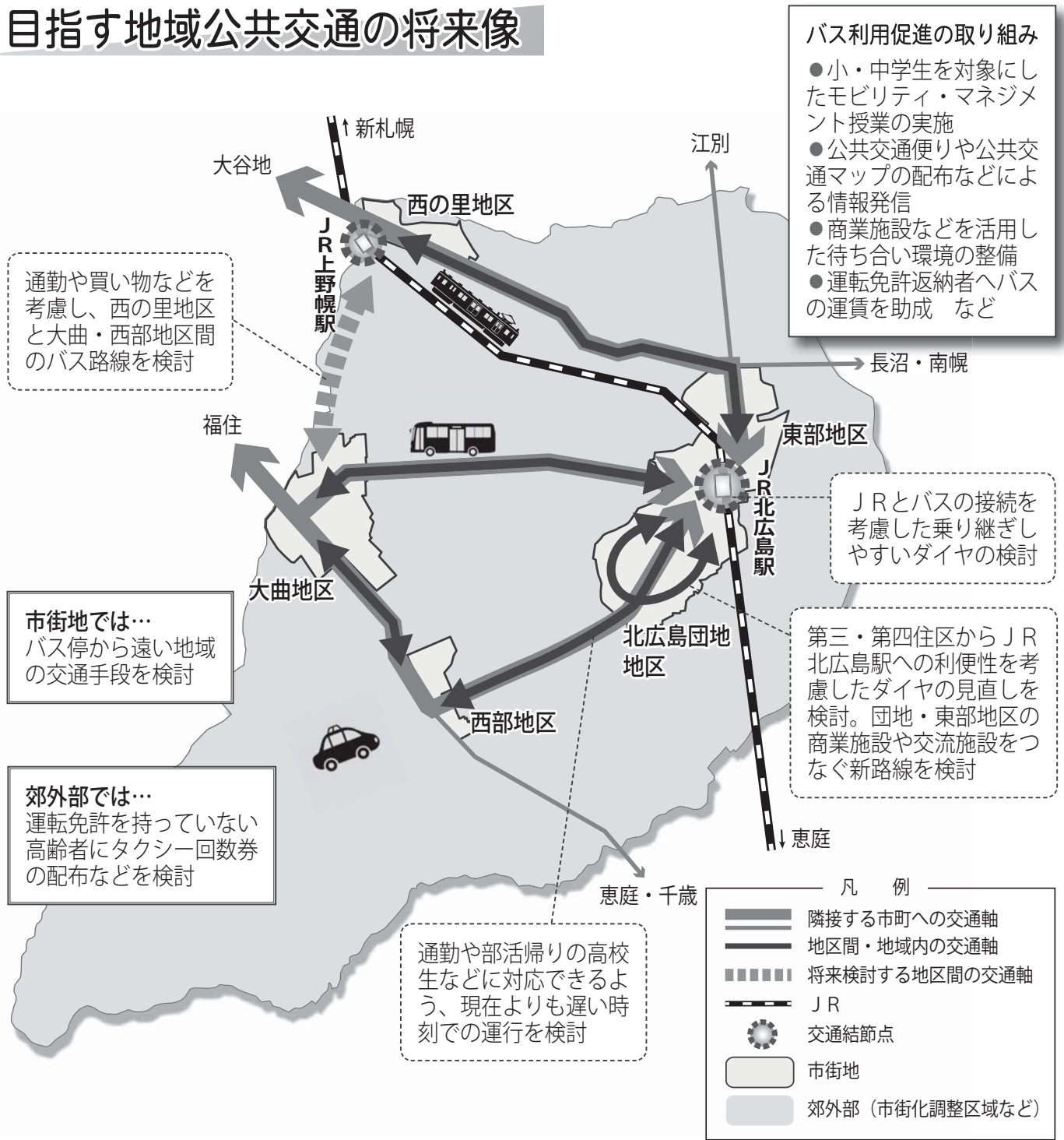
【計画の基本理念】

地区の特性に応じた生活交通を確保し、市民が安心して暮らせる生活環境を支える持続可能な公共交通網の構築

「4つの基本方針」

- 北広島団地地区内における生活交通を支援する新たな運行形態の構築
- 市民ニーズに即した市内の地区間を結ぶ公共交通網の充実
- 交通空白・不便地域における新たな交通体系の導入
- 公共交通を利用しやすい環境づくり

目指す地域公共交通の将来像



地域公共交通活性化協議会
副会長 鈴木聡士さん
(北海学園大学工学部教授)

「他人事」から「我が事」に

現状の市内公共交通網は、実は上手に作られています。全人口の約8割が利用できる状態になっており、東部や団地地区に至っては9割以上です。しかし、「利用したい時間にバスがない」「バスの終発が早い」などといった課題があります。これらを解決するためには、市と市民、事業者の協力が不可欠です。

何よりも市民の皆さんが公共交通の問題を「他人事」だと思わないことが大切です。危機感を持って「我が事」として捉える必要があります。

市民主体の取り組みとして、北広島団地自治連絡協議会が昨年実施した「のつてるカード」キャンペーンは素晴らしいですね。バスに乗ると提携店で特典が受けられる仕組みで、利用者の減少傾向を食い止めることに成功しました。このように、皆さん一人一人の協力があれば、公共交通を維持することができるのです。